

## 第 2 回大崎地区における高校の在り方検討会議での意見等

### 1 全般的なこと

- 「大崎の子供は大崎で育てる」という視点が必要である。
- 子供たちが行きたいと思うような学校，また高校での学びが次のステップにつながるような力をつけることができる学校運営を望む。
- 学校の再編は大変なことであるが，人口減少の実態がある中で，部活動などの課外活動も含めた教育環境の充実のためにはやむなしと考える。

### 2 学校配置，学科配置に関すること

- 地域の要請や学校の配置バランスを考慮して，どんな学科やどんな学びの視点が必要かということの整理が必要である。
- 現在の高校生や，今後，高校に入学する小・中学生の高校に対する期待や，教育現場の教員の視点にも立った，新たな学びや新たな学科やコースの設定を整理すべきである。
- 社会的状況や実現可能性に考慮しつつも，それだけに捉われない将来を見据えた学校，学科を設置する視点が必要である。
- 入学実績や交通状況から，中部地区の中学校卒業生数や学科バランスも考慮すべきである。
- 県全体でもどういうバランスで学科を配置していくかという視点も大事である。

### 3 望まれる学校像「タイプ 1：複数の職業系専門学科を有する高校」に関すること

- 再編を行う上でも既存の専門学科は継続すべきだ。

### 4 望まれる学校像「タイプ 2：学び直しや社会的自立に必要な能力の育成に主眼を置いた高校」に関すること

- 成績は優秀だが，コミュニケーション能力に問題がある生徒もいるため，高校における通級指導などの体制整備が必要である。
- 学び直しや社会的自立に必要な能力の育成を主眼とした高校を設置するのではなく，それを一つの視点として，いずれの学校でも取り組む体制が必要である。